

春の彼岸によせて

平成三十一年三月 大乘寺 長老 岡 光俊

先日、お子さまが大学で遺伝子工学を学ばれているというかたとお話しをした時のことです。そのお子さまと、人の性格はどのよう形成されるのかという話になり、家族で語られたそうです。

意外であつたことは、遺伝子工学の専門的な立場から、科学的根拠を元に話をするのかと思つていましたが、生まれてからの環境が大きいといわれたそうです。

さて、近年、家族のあいだでも素直な心を通い合わせることが難しくなつてきているようです。個人、社会、国家間において、個々の主張が強くなつてきているのも大きな要因でしょう。

皆さまは、相手を真に思いやる心をお持ちでしょうか。

皆が「この心」を持てば家庭でも職場でも、また国家の間でも争いはなくなることでしょう。

では、この大切な「心」はいつ形成されるのでしょうか。

若いお母さまがたから子育ての相談も多く頂戴しますが、以前にも、この場でお伝えさせて頂きました。が、子育ての基本は、皆さまがお使いになつている、「躰しづけ」という漢字に全ての意味が込められています。

「身を美しく」、「親の身、立ち居振る舞い、言葉使いが美しいこと」ということです。「力」に頼ることではありません。

子供は三才までに、身近にいる人、即ち、母親の真似をして多くを身につけていきます。ご承知の通り、人としての営みの基礎、基準は三才までに決まるといわれております。子育ての基本は、「身近」にあることを深く知ることが大切です。

人は皆、生まれ持つ能力が極端に違い、それが人間の素晴らしいところ。人の美しさは、心の美しさと綿密に連動しており、繕つくろうことはできません。心の美しいかたが少なくなつたのは、人間の思い違いが大きいのではないのでしょうか。

スポーツや学問は、毎日練習をしなければ身につかないことはご周知の通りですが、心は、「練習」しなくても、生まれながらに美しく、優しい心を持っていると思ひ込んでいるかたが大勢おられます。

美しい心は、常に努力をしなければ身につくことはありません。美しい心とは、無欲の心。ご自身が、命を下さった親や祖父母、またご先祖さまの方々に、感謝の気持ちを持って自然に頭こゝろを垂たれる姿。ご先祖さまからお預かりする子孫に、恥はずかしくない親、心とならせて頂きましょう。

日々は各家の佛壇の前で、また新しいお家では、お位牌を分けて頂き、まずはご両親が率先してご先祖さまの前で感謝の頭こゝろを垂たれる心が基本となり、お釋迦さまの教えをお経本等から頂き、心を磨かせて頂く機会を得ることが大切です。

知識を増やした分、心の豊かさも増えてゆき、生きるというバランスを取らせて頂きましょう。

春の彼岸、皆さまのご先祖さまは、桜の花々をご用意されて、ご家族全員の参拝を心よりお待ちなさっておられます。

人として命を引き継ぐことの困難さ故の尊さ、ご先祖さまに対する深い感謝の心は親や祖父母が子孫に伝えずには誰も伝えられません。

墓前で人にしかできない、美しい姿を子孫にお伝え頂く、尊い場となればと願っております。